

都内日赤病産院における先天異常 モニタリングに関する研究

野末源一¹⁾, 芦沢正見²⁾, 木村正文³⁾

研究方法ならびに今年度までの成績

日本赤十字社, 東京都内産科五施設(日赤医療センター, 武蔵野赤十字病院, 大森赤十字病院, 新宿赤十字産院, 葛飾赤十字産院)において, 1976年(昭和51年)以降, 独自の施設ベースの先天異常モニタリングを実施している。

このシステムでは, 先天異常児の発生の記録と共に, 要因解析を目的として, 先天異常児の診断記録票と同一の票を用い, その都度, 産婦年齢, 初産, 経産の別, 居住区域をマッチした対照例について記録し, ケースコントロール研究を行なっている。

すでに, 1985年には, 口蓋・口唇裂について, また, 低体重児について, 1986年には, 妊娠自覚前までの, ピル服用歴(7.5), 喫煙歴(1.5), 飲酒歴(1.1)のオッズ比を得た。

ダウン症候群発生の季節変動, 四肢奇形の細分類, などについて, 昭和61年度報告に示したとおりである。

環境の変化による, 発生の変動は極めて現代的課題の一つである。1986年に発生した, ソビエト連邦, チェルノブイリ原子力発電所の事故による, 放射性物質の大気中への拡散の問題は, ヨーロッパ諸国に対し, 遺伝子異常の変化を追跡しなければならない課題をもたらした。東洋の汚染状態とそれともなり異常発生の変化について, 東京都内都立病産院を含め, 1986年1月から1987年3月までの15カ月間の月別発生例について検討をした。精しくは, 昭和62年度報告書を参照されたい。無脳症がベースラインの2倍弱の数値になっている以外には, 大きな変化は観察されなかった。

母の年齢別の集計が簡単に可能なように, 速報である月報(翌月10日までに連絡係まで五施設から送付してくる手続)に, 前月分の出産の母の年齢別の数を記入するように, 変更した。

1988年度研究成績

時系列を, 月別に観察する必要性については, 1987年度の報告で述べたが, 今回も1988年1月から9月まで各月別に観察した。生産数は, 530から670まで分布しており, 140の差が認められ, それに比較して, 死産数は3ないし6で大きな変化はない。フィールド班の共通のマーカーの内, 主要な baseline の高いものについて, まず, 観察数を示し, さらに, 副耳, 18トリソミー, VSD, 鉤足, 血管腫さらには, 一例のみの異常についても, 列記した。

1) 日赤医療センター, 2) 日赤看護大学, 3) 元国立公衆衛生院

口唇・口蓋裂は、期待値にたいし、2倍発生しているが、変動の範囲内である。ダウン症候群も、期待値5に対し、8例の発生がみられている。

これまでの12年間の観察のなかで、認められなかった幾つかの異常が今回は認められた。

胸腹結合体、小人症、白子、大血管転位、などである。

18トリソミーは、以前から観察され始めていたが、今回は、4例の発生が観察された。染色体検査が発達するにつれ、また、母親からの要求の増加に伴いこのような数が、将来も観察されていくものと考察される。

スエーデンからの勧めで、歯科関係、美容師、などについて、主として結合不全、無脳症の発生の変化を検索したが、例数が極めて少なく結論づけることは困難であるが、歯科関係のみはオッズ比が、4.4と、他の職業に比し高く、有職業婦人も、無職の主婦に比し、オッズ比は、1.35で有意に高率である。

婦人労働が多くなる趨勢にある時、妊婦にたいする対策が急がれると思われる。

母の年齢について観察して見ると、ケースの母親は、若年と、高年齢に分布が拡大しており、高年齢は、長期間勤務の影響も考えられるが、若年の有職業婦人については、大部分を占めるその他の職業の大部分は、家業の事務手伝い、一般事務員で、若年労働婦人の労働環境・条件について衛生の立場から、注意深い観察を継続する必要があると考えられる。

表 1 日本赤十字社、東京5施設におけるモニタリング成績 1976・4—1982・6

職 業	ケース	コントロール	合 計
歯科医師、衛生士、技工士	3	1	4
薬剤師、検査技師	6	6	12
美容師	2	5	7
医師、保健婦、看護婦	13	15	28
化学物質取扱者	3	9	12
その他の職業	135	140	275
有職業	162	176	338
無職、主婦	504	740	1,244
総 計	666	916	1,582

表 2 ケースの異常部位

職 業	無脳症	二分脊椎	尿道下裂	口蓋・ 口唇裂	その他	計
歯科医師など	0	0	0	0	3	3
薬剤師など	0	0	0	1	5	6
美容師	0	0	0	0	2	2
医師など	0	2	0	1	10	13
化学物質取扱者	0	0	0	0	3	3
その他	3	1	3	6	122	135
有職業	3	3	3	8	135	162
無職、主婦	31	4	6	34	429	504
総 計	34	7	9	42	574	666

表 3 母の年齢

年齢	職業あり		職業なし		
	ケース	コントロール	ケース	有職業計	ケース計
-20	—	2	5	2	6
20-	21	13	45	34	66
25-	79	106	259	185	338
30-	45	43	157	88	202
35-	13	7	35	20	48
40+	4	5	3	9	7
計	162	176	504	338	666

表 4 1988

	base	J.	F.	M.	A.	M.	J.	J.	A.	S.	Expected
Live births		530	584	670	622	641	571	689	628	648	
Stillbirths		4	4	3	5	3	5	4	6	5	
anencephaly	8.4	2	0	1	0	0	1	0	0	0	5
hydrocephaly	2.1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1
cleft palate	5.2	1	0	2	0	0	0	1	1	0	3
total creft lip	11.3	1	2	3	0	0	1	3	3	0	6
spina bifida	3.2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
omphalocele	1.4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
anorectal atre./sten.	5.2	0	0	1	1	0	0	1	1	0	3
hypospadias	2.1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
polydactyly (f.)	9.8	0	0	1	0	0	0	2	0	1	5
syndactyly (f.)	6.8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
polydactyly (t.)	7.3	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4
syndactyly (t.)	9.5	2	0	0	1	1	2	0	1	1	5
clubfoot		1	2	0	1	1	0	0	3	1	
nevus pigmentosus		1	0	0	0	0	3	1	0	0	
Down syndrome	8.8	1	2	0	2	1	0	0	0	2	5
acces. auricle		1	3	2	1	0	1	1	2	2	
18 trisomy		1	0	0	1	1	0	0	1	0	
VSD		1	0	0	1	0	0	0	0	0	
hooked toe		0	0	0	0	1	0	0	1	0	
angiomatosis		0	1	0	0	0	0	0	1	0	

additional anomaly : each one case

J. doudeum stenosis. abdominal muscle diastasis

F. gastroschisis

M. mosaic chromosome. conjoint twin.

A. diaphragmatic hernia. central nerves disfunction. dwarfism. umbilical hernia

J. microcephaly, partial albino

J. ectopia vesicae. multiple. microtia.

A. reduction deformity of hand. Potter syndrome, transposition of the great vessels, back-knee

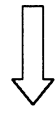
S. umbilical hernia

baseline 1976/4-1983/12 : live births 62,818, stillbirths 567



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究方法ならびに今年度までの成績

日本赤十字社, 東京都内産科五施設(日赤医療センター, 武蔵野赤十字病院, 大森赤十字病院, 新宿赤十字産院, 葛飾赤十字産院)において, 1976年(昭和51年)以降, 独自の施設ベースの先天異常モニタリングを実施している。

このシステムでは, 先天異常児の発生の記録と共に, 要因解析を目的として, 先天異常児の診断記録票と同一の票を用い, その都度, 産婦年齢, 初産, 経産の別, 居住区域をマッチした対照例について記録し, ケースコントロール研究を行なっている。

すでに, 1985年には, 口蓋・口唇裂について, また, 低体重児について, 1986年には, 妊娠自覚前までの, ピル服用歴(7.5), 喫煙歴(1.5), 飲酒歴(1.1)のオッズ比を得た。

ダウン症候群発生の季節変動, 四肢奇形の細分類, などについて, 昭和61年度報告に示したとおりである。

環境の変化による, 発生の変動は極めて現代的課題の一つである。1986年に発生した, ソビエト連邦, チェルノブイリ原子力発電所の事故による, 放射性物質の大気中への拡散の問題は, ヨーロッパ諸国に対し, 遺伝子異常の変化を追跡しなければならない課題をもたらした。東洋の汚染状態とそれともなう異常発生の変化について, 東京都内都立病産院を含め, 1986年1月から1987年3月までの15ヵ月間の月別発生例について検討をした。精しくは, 昭和62年度報告書を参照されたい。無脳症がベースラインの2倍弱の数値になっている以外には, 大きな変化は観察されなかった。母の年齢別の集計が簡単に可能なように, 速報である月報(翌月10日までに連絡係まで五施設から送付してくる手続)に, 前月分の出産の母の年齢別の数を記入するように, 変更した。